

コロナ差別を考える



2月26日(水)、日本医師会は新型コロナウイルス感染症に関する医療従事者らが受けた風評被害が、昨年10月から12月までの間、全国で698件あつたとの調査結果を発表しました。医療機関に勤務するというだけで「近寄るな」と言われたり、保育園に子どもの預かりを拒否されたりといった実態です。

1月、岡中では、全校で新型コロナウイルス感染症への偏見。
差別についての授業を行いました。

ればなりません。それなのに医療従事者に**対しての偏見・差別**が起ころるという実態はおかしいということを、生徒と一緒に**かんがえ**たいと思いました。また、「病気→不安→差別」という3つの負がスパイナルとなつて**感染拡大**につながつていることも併せて学習し、私たちにできることとは何か、考えました。

昨年から新型コロナウイルス感染症に対する**中傷**や差別をなくそうと訴える「シトラス

慰ながり 今回の執筆であり
ためて医療従事者に対する偏見・差別に気付いた人、実は自分も同じようにコロナ禍患者に対しても偏見・差別を考えていたと気付いた人がいました。

「リボン運動」が展開されていました。その運動も紹介して、実際にリボンを作った学級もありました。授業後の感想の一部を、右に紹介します。

もんたい
問題です。今回の授業から、新
型コロナウイルス感染症に関
連してだけでなく、世の中には
る偏見・差別に関心をもつて、
考え方統けて行動できる岡中生
であつてほしいと思います。
(記事内容は「読売新聞」より)

誰にきいても「偏見・差別はおかしい」と言います。しかし、現実に偏見・差別が起きているという実態があります。これは大人も考えなければならない

【授業後の感想】

- 3つの感染という中で、今日考えた「差別」は、コロナウイルスと闘っていかなければならない仲間なのに、感染してしまった人やその人たちを支えるナースなどの人たちを差別するのは、これから先、いつコロナが収まるか分からない中で、そのようなことをしていたら、自分たちでウイルスの味方をしているのも同然だと思いました。差別をするのではなく、苦しんでいる人を支えてあげるような世界にしないといけないと思いました。〈1年〉
- 映像を見て、あらためて医療関係の方は素晴らしいと思いました。コロナが出来たとして、これまで大変だった現場がさらに大変になり、人手不足で困難な状況。さらには、働いて人の命を助けることをしているのにひどい声を浴びせられたりと、心身ともにくずれていきそうだなと思いました。本当に、医療の人たちは偉大だと思いました。今自分にできるのはマスク・手洗い・うがい・密にならないことだと思うので、それを徹底し、日々を過ごしていきたいです。〈2年〉
- 今日の授業を受けてみて、自分も「東京には行きたくないな」とか「××の車のナンバーやん」を言ってしまったことを思い出しました。悪いのはコロナウイルスなのに、その人を悪いと言つてしまっていて、とても最低だと思いました。不安なのはみんな同じなので、一人一人が手洗い・うがい・マスク消毒など、少しでも気を付けることだと思いました。また、少しでも偏見や差別をなくすために、自分がそういうことを思っても、行動しないように気を付けていきたいです。〈3年〉

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組／お名前

(ペンネームもOKです)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？（〇・×）